

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省1	異業種連携生体認証プロセスに関する国際標準化	近年、生体認証に関わる個人情報保護やプライバシー保護が法制化されてきており、異業種間で登録情報に利用するにはそれぞれの組織で本人同意が必要で、本人同意がなく登録情報を使用すると、それらに抵触する可能性があり、事業者には過大な反則金を請求されるリスクが生じる。そのため、個人情報やプライバシーにかかわるビジネスリスクを低減するために、生体認証の異業種間連携に関し、異なる2つ以上の組織間で情報共通を運用プロセスの標準化を行う。	3年	7,546,000円(上限)／初年度
募省2	スマートマニュファクチャリングのアセスメントに関する国際標準化	工場のスマートマニュファクチャリング実践の達成度を評価する基準(アセスメント)が必要になってきている。このアセスメント基準は、多くの国や企業から複数提案されて統一されておらず、他社との比較が困難な状況である。このため、各企業が俯瞰的に調査、検索して他社との比較を可能にするためのスキームを策定するための国際標準化を行う。	3年	3,012,900円(上限)／初年度
募省3	二次電池を利用した電気エネルギー貯蔵システム(EESS)の信頼性向上に関する国際標準化	電気自動車向けの二次電池の普及に伴い、その分野から供される電池を再利用二次電池として活用することが求められているが、このような履歴の異なる再利用二次電池搭載に伴うシステム視点での規格が存在せず、活用・普及に至らない要因となっている。このため、異なる性能、使用履歴の再利用二次電池を搭載したEESSにおいて、性能ばらつきを考慮した監視方式、性能ばらつきを解消する電力変換・制御サブシステムを含むEESSに関して国際標準化を行う。	3年	11,000,000円(上限)／初年度
募省4	ブロックチェーンの権利情報の書き込みに関する国際標準化	トークン(例:NFT)と併せて流通するコンテンツに関して、利用許諾をはじめとする権利情報の記載方法がコンテンツプロバイダによってまちまちで、エンドユーザーにとって不明確という課題があった。これを解決すべく、ISO/TC 307においてトークン上への権利情報の記録方法・記録データ、トークンの取引方法の国際標準化を行う。	3年	25,167,900円(上限)／初年度
募省5	SiCエピタキシャルウェハ品質試験法に関する国際標準化	SiCパワー半導体は、結晶に多くの欠陥が内在するため、デバイスの品質や信頼性を確保するためには欠陥の種類別に欠陥密度や面内分布を把握することが重要。そのため、SiCエピタキシャルウェハの欠陥種類を判別可能な品質試験法の国際標準を開発する。	3年	14,960,000円(上限)／初年度
募省6	遠隔制御システム向けIoTプラットフォームに関する国際標準化	ネットワークを介した様々な産業用の遠隔制御システムの実現するためのIoTプラットフォームの標準化を実施。ISO/IEC 30161シリーズ(IoT Data Exchange Data Platform)の実現形態として、機器接続抽象化機能を組み合わせることにより、制御システムの遠隔接続を実現。アーキテクチャ、インターフェース及び実装方式の国際規格を開発する。	3年	4,998,000円(上限)／初年度
募省7	自動運転時代の省電型高信頼車載光ネットワークの国際標準化	2040年頃までには完全自動運転車が普及すると考えられており、車載通信においても高速・高信頼化は必須技術とされている。このような中、日本には光通信部品のサプライヤが多く、システム構成部品の多くを占有する好機であることから、システムや相互接続性についての国際標準化を行う。	3年	5,500,000円(上限)／初年度
募省8	電力システムの平常時・非常時におけるリスク評価手法に関する国際標準化	社会状況や自然災害などの電力システムにおける不確定要素が増加し、電力の安定供給・品質維持に対し脅威となっていることから、それらへの対策をしてリスク量を低減することが必要である。しかしながら、昨今の複雑化された電力システムでは対策選定の判断が困難であり、定量的な判断基準を設定して、その上でリスク評価を行うための評価手法の標準化が求められる。このことから電力システムにおけるリスク、リスク評価手法、リスク量低減手法、レジリエンス確保手法等について国際標準化を行う。	3年	11,000,000円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募省9	建築・構造物一体型太陽光発電に関する国際標準化	太陽光発電システムの発電量の予測には、斜面日射量の予測が重要であるが、傾斜角が大きくなるほど予測精度は悪くなる。そこで、太陽光発電システムの建設・設置が予定されている地点周辺の過去の気象データと様々な傾斜角の太陽光における発電量から建設前に年間発電量を予測する手法に関する国際規格を開発する。加えて、日本が世界に先駆け製品化した電熱シートを用いた融雪形PVモジュールについて、その融雪性能を評価する試験方法に関する国際規格を開発する。	3年	18,000,000円(上限)／初年度
募省10	量子コンピュータ向け非磁性コネクタの国際標準化	超伝導量子コンピュータでは微少な磁性も性能に影響するため量子チップ周辺の部品において非磁性が求められる。一方で、非磁性の定義がなく、性能・品質を明示出来ない状況にある。日本がリードするコネクタに関して、非磁性コネクタの磁性レベルおよび、磁性評価方法の国際標準を開発する。	3年	12,237,000円(上限)／初年度
募省11	再生可能エネルギーアグリゲーションシステムに関するサイバーセキュリティの国際標準化	再生可能エネルギーアグリゲーションは、変動性の高い太陽光発電等の再生可能エネルギー発電設備と蓄電池等のDERを組み合わせ、需給バランス確保のための発電量予測、DERを活用した安定かつ効率的な電力システムの構築、再生可能エネルギーの普及拡大を目的としており、太陽光システムを代表とする再生可能エネルギー機器を調整対象にした際、セキュリティ脆弱性を含有する機器特性を鑑みたとき、システム全体の脆弱性を高めてしまう。機器の国際性を鑑みたとき、国内規格はセキュリティ確保に有効ではないため、セキュリティ確保に有効な国際規格を開発する。	3年	22,986,176円(上限)／初年度
募省会旅1	IEC/TC88風力発電システムに関する標準化活動	風力発電は、単機出力の大きい洋上風車が主流となって設置ウィンドファームが大規模となるなど変化も著しく、また、電力インフラを支える発電設備として発電量予測を精緻にすることを求められるなど、各種の要求事項が整備・検討されている。このような風力発電にかかる各種の要求事項はIEC/TC88(風力発電システム)において国際規格が開発され、各国の設置・運用の基礎として定着し電力インフラの基盤となっている。この状況から風力発電にかかるIEC/TC88の標準化活動を進める。	1年	6,593,400円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募戦1	集束イオンビーム(FIB)加工を利用したマイクロビーム分析技術に関する国際標準化	集束イオンビーム(FIB)により作成される透過電子顕微鏡用試料の様々なダメージ層の把握に基づき、汎用的ダメージの定量的な評価方法等の国際標準化を行う。	3年	14,111,168円(上限)／初年度
募戦2	微小部蛍光X線分析におけるX線ビーム径の評価方法に関する国際標準化	微小部蛍光X線分析装置の性能に影響する重要なパラメータであるX線ビーム径の評価方法について、用語の定義等も含めた国際標準化を行う。	3年	4,000,000円(上限)／初年度
募戦3	地球/月圏の宇宙利用サービスに関する国際標準化	異なる複数のセンサを相互利用するための一般事項や月面産業を推進するための、基礎となる座標や地図等について国際標準化を行う。	3年	23,414,012円(上限)／初年度
募戦4	コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術等に関する国際標準化	コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを通じた基本的な考え方、調査、診断、補修、補強等に関する国際標準化開発を行う。	3年	8,190,000円(上限)／初年度
募戦5	銅、鉛及び亜鉛精鉱中の銀、ひ素及びふっ素定量方法に関する国際標準化	銅及び亜鉛精鉱中の銀の湿式定量法、銅、鉛及び亜鉛精鉱中のひ素、アンチモン、ビスマス等、ふっ素定量方法について日本で開発または採用している分析方法を国際的な取引でも通用させるために、国際標準化を行う。	3年	3,308,800円(上限)／初年度
募戦6	デジタルカメラの撮影画像のオリジナル性保証等に関する国際標準化	最近の技術の進歩によって多様なフェイク画像などの作成が容易となり、コンテンツの信頼性確保への対応が国際的にも課題となっている。このため、事実歪曲ない状態で記録された撮像画像を、カメラユニークなメタデータとともに、改竄なく後段の来歴記録に伝達させるための枠組の構築などについて国際標準化を行う。	3年	24,200,000円(上限)／初年度
募戦会旅1	防護服に関する標準化活動	防護服に関する国際規格の改正及び制定などに対応し、国内外の製品の安全性向上や国内メーカーの産業競争力強化を目的に活動を行う。	3年	5,215,370円(上限)／初年度
募戦会旅2	ばねに関する標準化活動	日本のばね産業の取引実態を踏まえ、ISO/TC227(ばね)の国際標準化活動に参画し、それらの動向を国内委員会にて検討を行い、日本の意見の反映を図る。	3年	3,459,200円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募戦会旅3	用語エントリーに関する標準化活動	ISO/TC37/SC2(専門用語ワークフロー及び言語コード)における用語エントリーに関するISO規格(ISO10241-2:2012)の改正審議に関し、JISにおける用語規格等我が国の実情を踏まえた改正案の検討を行い、日本の意見を規格審議に反映させるための標準化活動を行う。	3年	3,725,496円(上限)／初年度
募戦会旅4	粒子特性評価に関する標準化活動	我が国の粒子計測技術の実態を踏まえ、ISO/TC24/SC4(粒子特性評価)の国際標準化活動に参画し、それらの動向を国内委員会にて検討を行い、日本の意見の反映を図る。	3年	1,204,407円(上限)／初年度
募戦会旅5	ISO20121改訂イベントサステナビリティにおけるマネジメントシステムに関する標準化活動	世界中で求められているサステナビリティ活動をイベント業界にも取り入れるため、ISO/PC250(Sustainability in event management)の審議に関して国内関係者の意見をとりまとめ、国際会議に参加し、日本の意見の反映を図る。	1年	2,638,912円(上限)／初年度
募戦会旅6	ISOTC61SC1に関する標準化活動	ISO/TC61/SC1(用語)において、コンビーナを担う要職者を派遣することで会議における日本のプレゼンスを発現する。また、併せてロビー活動も行い、日本主導の規格開発を促進する。なお、国際会議における成果を最大化するため、準備委員会等にて十分議論を行う。	3年	1,888,556円(上限)／初年度
募戦会旅7	ISOTC61SC2に関する標準化活動	ISO/TC61/SC2(機械的性質)において、コンビーナ、PL等を担う要職者を派遣することで会議における日本のプレゼンスを発現する。また、併せてロビー活動も行い、日本主導の規格開発を促進する。なお、国際会議における成果を最大化するため、準備委員会等にて十分議論を行う。	3年	2,703,412円(上限)／初年度
募戦会旅8	ISOTC61SC5に関する標準化活動	ISO/TC61/SC5(物理・化学的性質)において、PLを担う要職者を派遣することで会議における日本のプレゼンスを発現する。また、併せてロビー活動も行い、日本主導の規格開発を促進する。なお、国際会議における成果を最大化するため、準備委員会等にて十分議論を行う。	3年	1,916,144円(上限)／初年度
募戦会旅9	マイクロプラスチック測定自動前処理装置に関する標準化活動	海洋や河川等の環境水中に含まれるマイクロプラスチックを分析するための前処理方法について、手処理(マニュアル)で処理する方法や自動前処理装置を用いる手法など、前処理全般に関して国際標準化活動を行う。	3年	7,147,869円(上限)／初年度
募戦会旅10	下水中の新型コロナウイルス検出法に関する標準化活動	下水を対象としたSARS-COV-2および同変異株検出に関する国際標準等について日本国内の意見を取りまとめ、国内で実施中の手順についても標準から逸脱しないようにISO/TC147/SC4/WG26等で国際標準化活動を行う。	3年	5,946,781円(上限)／初年度

テーマ名		テーマ概要	事業期間	委託予算額
募戦会旅11	ISO/TC 79/SC 2(アルミニウムの陽極酸化皮膜及び有機塗料膜)に関する標準化活動	日本が幹事国を務めるISO/TC 79/SC 2において、国際会議の議事進行、積極的な参画を行い、定期見直しで主導的な立場にたち規格開発(改訂プロジェクト)を行う。SR投票・各ステージでの規格案投票にて、日本の実情を確認してコメントを提出し反映させる。	3年	1,468,903円(上限)／初年度
募戦会旅12	金属無機コーティングに関する標準化活動	金属無機コーティング分野の国際標準の提案・審議・策定の場としてISO/TC 107 (Metallic and Other Inorganic Coatings)の総会(Plenary Meeting)が日本で開催される。このTC 107には、5つの分科会(SC){めっき(SC3)、溶融めっき(SC4)、腐食試験(SC7)、化成処理(SC8)、PVD(SC9)}および4つのワーキンググループ(WG){膜厚測定法(JWG4)、溶射(WG1)、珪瑯(WG2)、ALD(WG5)}があり、これらの会議に積極的に参画して日本の意見を反映させる。	3年	2,488,176円(上限)／初年度